



愛ある宕

あいあるところ

令和6年6月10日(月)号

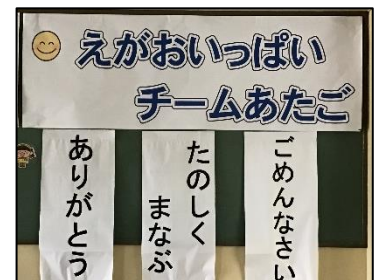
「ありがとう」の飛び交う学校

先週6月3日(月)の朝会の中で、下村先生と、ある場面を想定した劇を行いました。その場面は、「友達にノートやお便りなどを配付するとき」の様子で、交わす言葉を変えて二場面行いました。

一つ目は、名前を呼んでも相手の目を見ずに、無言で受け渡すする場面。もう一つは、相手の目を見ながら、「はい、どうぞ」「ありがとう」と声を交わしながら受け渡すする場面。子どもたちに「どちらがいいと思いますか」と尋ねると、即座に「二回目」と答えました。

「無財の七施(むざいのしちせ)」という言葉の中に、「顔施」「言施」などの施しをすることの大切さが説かれています。私たちの日常生活において、お金がなくても、物がなくても周りの人々に喜びを与えていく、少しでも喜んでもらえる方法があるのです。「ありがとう」「おかげで助かったよ」「ごろうさま」「よくやってくれて、うれしいなあ」…人に感謝に言葉をかけることは、少し意識してやればできることです。言葉をかけた人も自分を高めることができ、周りの人々の心を和ませることができるのです。

「あ・た・ご」の「あ」は、あたたかい心、「ありがとう」です。愛宕小学校をさらに「ありがとう」の飛び交う学校にしていきたいと思います。「ありがとう」は、特別なときに言うものではありません。少しでも助かったとき、自分のために誰かが動いてくれたとき、係や当番の子がはたらいているとき、「ありがとう」と言葉を交わしてください。実は先週、すでにある学級から、給食の配膳をするときに「はい、どうぞ」「ありがとう」の声が交わされていました。一日に何度言っても構いません。自分や周りの人の心を温かくして、温かな学校をつくっていきましょう。



先週の金曜日、6年生は校外実習で化石採取・博物館見学を行いました。化石を見つけない子への配慮、お弁当と一緒に食べようと仲間への声掛け等、温かな関係づくりがありました。「あたたかな心」を実行に移す6年生です。

今週14日(金)に開催される「愛宕小学校 夢プロジェクト①」として、子供夢・アート・アカデミー事業『若き日の家康公像制作者 神戸峰男様による粘土の授業』が開催されます。夢プロジェクトの前に、改めて家康公像を見ておこうと、多くの学級が見学に行きました。「家康がかっこよかった」「思った以上に大きかった」「遠くからも見る事ができた」など、子どもたちは感激していました。また、校長室前には、各家庭で撮影された家康公像の写真が展示されています。ご協力いただき感謝いたします。



14日(金)9時から9時40分までの時間帯は、体育館にて保護者の方も神戸様のお話を聞くことができます。ご都合のつく方は、どうぞいらしてください。

